

瀬上 1 奥州瀬上宿

歴史と果物の里 せのうえ

3でらんにふしま通



①奥州 瀬上宿看板 (表紙写真)
 旧奥州街道の宿場町として栄えた瀬上宿は、阿武隈川水運の瀬上河岸があり交通の要所でもありました。こうした地の利から、瀬上花街としても知られていました。
 瀬上は寛政12年(1800)以降、備中足守藩(現岡山県岡山市)の領有地となり、足守藩から派遣された代官が、この地を治めていました。

②瀬上嶋貫本家
 明治時代の母屋を11代当主が復元したもので、国登録有形文化財。上杉家の家臣だった嶋貫本家は江戸時代に武士を捨て、瀬上の地に移り住んだと伝えられ、後に大地主となりました。

③瀬上小学校チンチン電車
 昭和46年まで福島市や伊達市を走っていた路面電車です。大正15年より蒸気機関車にかわって福島～長岡～湯野間が電車化されました。この電車は昭和27年から運転されたもので、通勤、通学、市民の足として毎日たくさんの人たちが利用してきました。

④足守藩 陣屋
 備中足守藩は、豊臣秀吉の正室杉原寧子(高台院)の実兄、木下家定を藩祖とする25,000石の外様大名です。備中足守(現在の岡山県岡山市足守町周辺)を支配していましたが、寛政12年(1800)12月、幕府より信夫、伊達両郡に村替を命ぜられこの地に陣屋を設置しました。以後70年間この地を支配し、明治3年12月、分領は県に渡され解体しました。



⑤青楊山龍巖寺
 曹洞宗の寺で、境内にある龍源寺聖観音は信達地方に所在する観音菩薩を巡拝する信達三十三観音の第13番札所となっています。

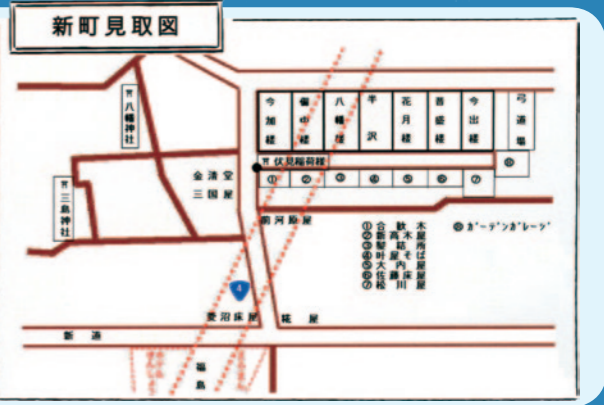
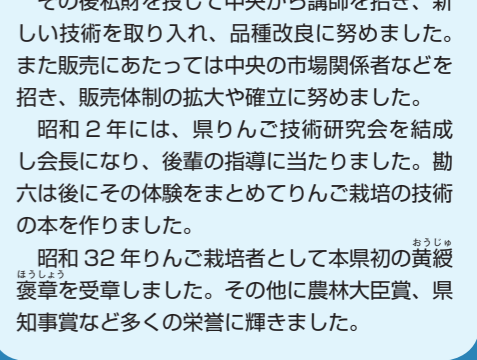
⑥台巖寺
 寺所蔵の享和3年(1803)に作成された国史跡・石母田供養石塔(国史蹟)の模刻は、市有形文化財に指定されています。
 また、ここの公孫樹は福島市保存樹に指定されています。樹高15m。

新町
 瀬上宿は元禄・享保から文化・文政にかけて全盛期を迎えました。明治35年に花街が瀬上の東裡といわれた薬師前に移動し、こちらは「新町」と呼ばれました。

⑦鎮守 青柳神社
 太古の昔この里に住みはじめた人々が、守護神としてお祀りしました。昔、境内に柳の大木が繁茂していたので、青柳の社と称されるようになりました。後に、現在の地に遷座したといわれています。



⑧りんご 桃 果樹畑
 明治30年に伊達郡瀬上村(現福島市)に生まれた阿部勘六は、福島地方の新しい農業経営を模索していましたが、その打開策に果樹特にりんご栽培が適していると確信し、大正10年頃父の理解を得て、りんごの苗470本を植えました。
 その後私財を投じて中央から講師を招き、新しい技術を取り入れ、品種改良に努めました。また販売にあたっては中央の市場関係者などを招き、販売体制の拡大や確立に努めました。
 昭和2年には、県りんご技術研究会を結成し会長になり、後輩の指導に当たりました。勘六は後にその体験をまとめてりんご栽培の技術の本を作りました。
 昭和32年りんご栽培者として本県初の黄綬褒章を受章しました。その他に農林大臣賞、県知事賞など多くの栄誉に輝きました。



さらに向瀬上地区へ足を伸ばしてみましょ!(+約4km)
 詳細は裏表紙をご覧ください。

瀬上村は奥州街道が通る宿場で江戸時代からヒト、モノ、情報の集散地として発展していました。また、蚕種・生糸の生産地として、多くの商人が入り出していました。彼らが嗜好品である果物を求めたため、商品作物として果樹(りんご)が栽培されるようになりました。現在はりんご以外にも、様々な果物の栽培が盛んです。

瀬上駅から前川原地区の果樹園が一望できます



銘菓「信夫の里」(アッセ) 大好評の名物揚げのりもち、あげゆべし等、ぜひご賞味下さいませ。



江戸時代末期より続く蔵造りの伝統を生かした手作りの味噌。国産原料を使用した、無添加の味噌。醤油・お漬物です。

